

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： 「ビッグデータ同化」の技術革新の創出によるゲリラ豪雨予測の実証
2. 研究代表者： 三好 建正（理化学研究所計算化学研究機構 チームリーダー）
3. 中間評価結果

データ同化手法に基づき、京コンピュータを使ったアンサンブル・シミュレーションとフェーズドアレイ・レーダから得られる実時間データを高速にデータ同化し、ゲリラ豪雨の30分前予測を精度よく達成する技術を確立しつつある。国内外での評価も高く、海外での注目度も上がっており、国際的にも only one の技術となりつつある。気象観測のみならず、大規模動的システムの準実時間データ同化の多様な研究課題に貢献すると期待できる。フェーズドアレイ・レーダや京コンピュータを利用していることから、一般的な気象観測・予報への応用普及を語る声もあるが、これらの問題は時間が解決するものである。しかしながら、本成果の技術をダウンスケーリングして広く普及を目指す研究開発も、可能な範囲で試みていただきたい。そこにもまた、重要な研究課題が見いだせるように思われる。